

# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 離島航路運営費等補助事業者の概要 (3事業者、3航路)

### (有)阿多田島汽船 (阿多田～小方航路)

- 島の概要
  - ・阿多田島 (人口215人) ※令和7年10月8日現在
  - 【主な産業】漁業 (イワシ網業、かき養殖業、魚養殖業) 【島内交通】なし 【主な施設】診療所・郵便局・宿泊施設
- 事業概要
  - ※阿多田～小方間を1日5往復運航 ※使用船舶: 1隻 (フェリー)
- ①航路の特性
  - ・本航路は本土と阿多田島を結ぶ唯一の交通機関である。通学者、通勤者及び通院者等をはじめとする島民の本土への交通手段として、加えて、島内外から生活必需品や諸物資の流通路として利用され生活航路としての重要な役割を果たしている。また、ゴミ収集車両や工事車両及び海産物出荷車両の運送並びに島外から往来する釣り客及び観光客にとっても当該航路が唯一の交通機関であることから、本土における国道・県道等に匹敵する重要性、公共性を有するものである。
- ②航路の現状
  - ・島内人口は年々減少傾向にあるものの高齢化率は低い。また、夏場は猛暑の影響により旅客数が減少している。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数1,822回の現状を維持し、離島住民の生活安定及び向上に資する。

#### 事業実施の適切性

欠航は生じておらず、事業は概ね適切に実施されている。

#### 目的・効果達成状況

目標である前年レベルの運航回数を確保した。  
(年間目標1,822回、令和7年度運航回数1,831回、欠航0回、臨時増便9回)

#### 事業の今後の改善点

猛暑により、夏場の集客が減少傾向にあるため、港でのイベントを企画し、少しでも利用者を増やす取り組みを実施して行く予定。さらに、SNSでの継続的な情報発信や御船印のPR活動を通じて、年間を通して離島住民以外の方にも利用してもらうことを目指す。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 走島汽船(有) (走島～鞆航路)

○島の概要 ・走島(人口356人 235世帯) ※令和7年3月31日現在

【主な産業】漁業

【島内交通】なし

【主な施設】診療所、市役所分所、民宿5軒

○事業概要 ※走島～鞆間を1日5往復運航 ※使用船舶：1隻(フェリー)

①航路の特性 ・本航路は本土と走島を結ぶ唯一の交通機関であり、走島～鞆間を1日5往復運航している。島内施設は、小さな個人商店は有るものの、日常必需品については殆ど本土側で購入している。また、病院、量販店、理容院などもなく、日常生活は本土に依存している状況にある。このようなことから本航路は必要不可欠な航路である。

②航路の現状 ・本航路の利用者は島民が殆どである。島の人口は年々減っており、今後も人口減少と高齢化が進むものと考えられる。一方で、新たな島内産業の陸上施設も整備され、一定の雇用や商品輸送が見込まれている。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数1,825回の現状を維持し、離島住民の生活安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

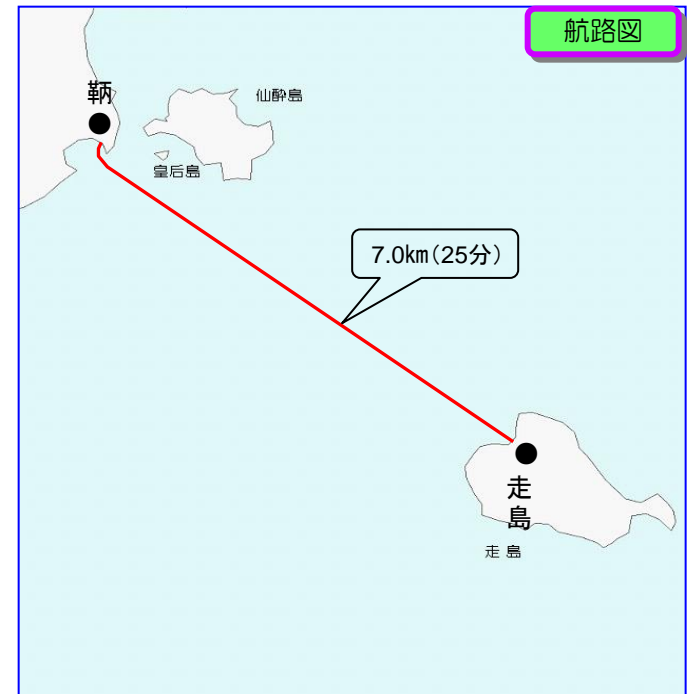
### 目的・効果達成状況

目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天等のため欠航が一部生じた。(年間目標1,825回、令和7年度運航回数1,793回、欠航38回、臨時増便6回)

### 事業の今後の改善点

航路事業者として安心・安全な航路運営に努めるとともに島民や島外からの一般利用の利用促進のニーズに対応していく

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 尾道市（細島～西浜航路）

○島の概要 ・細島（人口24人 17世帯 高齢化率 70.8%） ※令和7年10月24日現在  
【主な産業】農業（柑橘、野菜（みかん、レモン、きぬさやえんどう等）の栽培）  
【島内交通】公共交通なし  
【主な施設】宿泊施設あり（現在休止中）。教育施設・医療施設・福祉施設・郵便局・商店なし。

○事業概要 【細島～西浜間を1日8往復運航】 【使用船舶：1隻（フェリー）】

- ①航路の特性 ・本航路は、因島と細島を結ぶ唯一の交通手段である。細島には教育施設、医療施設、福祉施設、商店等がなく、すべて対岸の因島に頼っているため、当該航路は日常生活に不可欠である。利用者の殆どは、通勤、通院で利用する細島住民である。また、ごみ、し尿は当該航路を利用した定期収集により搬送している。
- ②航路の現状 ・輸送実績は、島民の減少に伴い減少傾向にある。利用者が固定されていることもあり、大幅な収入の増加は見込めない。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数2,710回の現状を維持し、離島住民の生活の安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

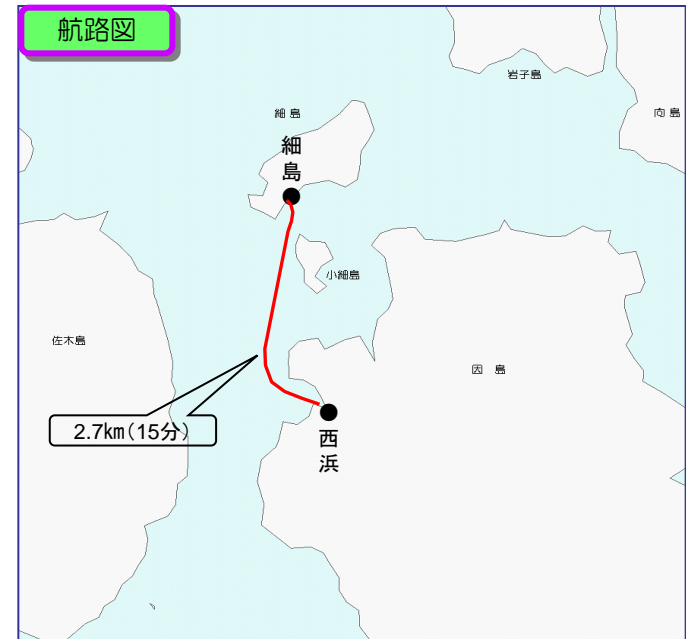
### 目的・効果達成状況

目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天のため欠航が一部生じた。（年間目標2,710回、令和7年度運航回数2,706回、欠航4回、不定期運航4回）

### 事業の今後の改善点

島内人口が減少、高齢化が進行する中で、日常生活に欠かせない唯一の交通機関として、利用者の利便性、安全性が十分確保できるよう航路運営に努める。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (岡山県 離島航路確保維持計画に基づく事業)

岡山県離島航路確保維持協議会の構成員  
◎笠岡市  
◎岡山県  
◎三洋汽船(株)  
◎中国運輸局

## 離島航路運営費等補助事業の概要 (2事業者、3航路)

### 三洋汽船(株) (笠岡～飛島～六島航路)

- 事業概要
  - ・旧飛島～笠岡航路(豊浦汽船(株))及び旧六島～真鍋～笠岡航路(六島航路(有))の2航路を統合し、H23.10.1から本航路(三洋汽船(株))を運航
  - ・笠岡～飛島(大飛島・小飛島)～六島間を1日4往復運航
  - ・使用船舶: 1隻(旅客船)
- 島の概要(R6.10.1現在)
  - ・六島 (人口 42人 28世帯 高齢化率 69.0%)【主な産業】漁業【島内交通】なし【主な施設】小学校、出張診療所
  - ・飛島 (人口 72人 60世帯 高齢化率 77.8%)【主な産業】農業・海運業【島内交通】なし【主な施設】出張診療所、研修所
- 当事業に係る目的・必要性
  - ・笠岡～飛島～六島航路は、笠岡港と小飛島、大飛島、六島を結び、他航路がない唯一の航路であり、本航路は各離島住民にとって、通院、買物等になくてはならない生活航路である。離島住民の生活は、本土(笠岡市)の病院や商業施設に依存しており、本航路の利用が不可欠となっている。

### 定量的な目標・効果

年間目標利用者数を24,711人とする。

### 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

### 目標・効果達成状況

R6.10～R7.9までの利用者は25,684人であり、前年度利用者25,253人から431人増加した。観光目的の利用が増えたことで利用者は微増したが、令和3年度以降、過疎化に伴い、相対的に減少傾向となっている。なお、目標利用者数24,711人の達成はできた。

### 事業の今後の改善点

島しょ部住民の高齢化や人口減少が進む中、日本遺産認定を起爆剤として、今後も引き続き、運航事業者と行政が連携を図りつつ、島しょ部のイベント等の活用や情報発信を行い、島外利用者の誘致によって、航路維持を図る。



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (岡山県 離島航路確保維持計画に基づく事業)

岡山県離島航路確保維持協議会の構成員  
 ◎笠岡市  
 ◎岡山県  
 ◎三洋汽船株  
 ◎中国運輸局

## 三洋汽船株 (笠岡～佐柳本浦航路)

- 事業概要
  - ・(普通船) 笠岡～神島外浦～高島～白石島～北木島～真鍋島間を1日4往復運航
  - ・(高速船) 笠岡～白石島～北木島～真鍋島間を1日4往復運航 ・(土曜のみ) 真鍋島～佐柳本浦間を1往復
  - ・使用船舶：2隻(旅客船)
- 島の概要 (R6.10.1現在)
  - ・真鍋島(人口 143人 99世帯 高齢化率 76.2%)【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】中学校、診療所
  - ・北木島(人口 543人 381世帯 高齢化率 78.1%)【主な産業】石材業・漁業 【島内交通】交通空白地有償運送【主な施設】幼稚園、小学校、診療所
  - ・白石島(人口 327人 230世帯 高齢化率 78.0%)【主な産業】漁業・観光 【島内交通】なし 【主な施設】保育所、診療所
  - ・高島(人口 72人 45世帯 高齢化率 66.7%)【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】出張診療所
- 当事業に係る目的・必要性
  - ・笠岡～佐柳本浦航路は、高島～白石島、北木島～真鍋島間は、他航路がない唯一の航路であり、本航路は各離島住民にとって、通院、買物等になくはならない生活航路である。離島住民の生活は、本土(笠岡市)の病院や商業施設に依存しており、本航路の利用が不可欠となっている。

### 定量的な目標・効果

年間目標利用者数を100,086人とする。

### 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

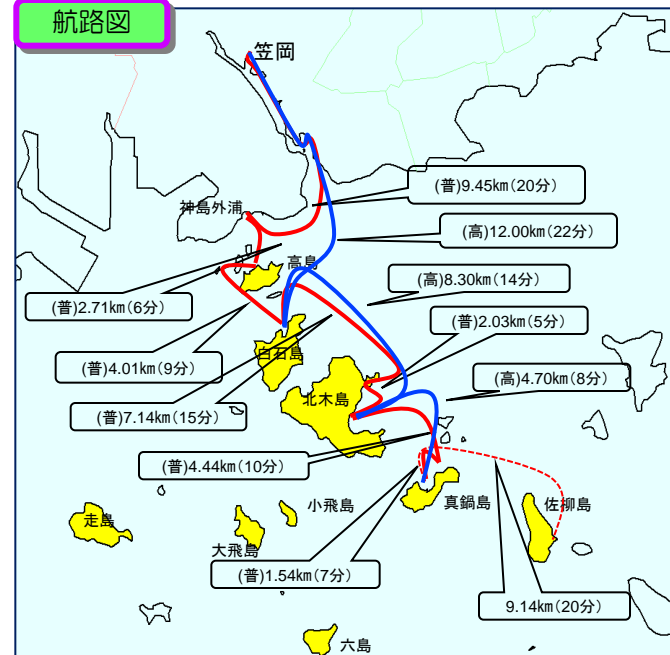
### 目標・効果達成状況

R6.10～R7.9までの利用者は94,202人であり、前年度利用者97,677人から3,475人減少した。観光客は増加しているものの、過疎化に伴い、利用者は減少傾向であり、目標利用者数100,086人の達成はできなかった。

### 事業の今後の改善点

島しょ部住民の高齢化や人口減少が進む中、日本遺産認定や白石踊のユネスコ無形文化遺産登録を起爆剤として、今後も引き続き、運航事業者と行政が連携を図りつつ、島しょ部のイベント等の活用や情報発信を行い、島外利用者の誘致によって、航路維持を図る。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (岡山県 離島航路確保維持計画に基づく事業)

岡山県離島航路確保維持協議会の構成員

- ◎備前市
- ◎岡山県
- ◎大生汽船(株)
- ◎中国運輸局

## 大生汽船(株) (大多府～日生航路)

- 事業概要
- ・大多府～鴻島～頭島～日生間を1日6.5往復運航
  - ・使用船舶：1隻(旅客船)

○島の概要(R7.3.31現在) ※外国人を含む

- | 島名   | 人口   | 世帯数   | 高齢化率  | 主な産業  | 島内交通 | 主な施設         |
|------|------|-------|-------|-------|------|--------------|
| 大多府島 | 62人  | 52世帯  | 54.8% | 漁業    | なし   | 公営漁村型リゾート施設  |
| 鴻島   | 55人  | 44世帯  | 65.5% | 漁業、農業 | なし   | 教育施設・医療施設なし  |
| 頭島   | 360人 | 219世帯 | 47.2% | 漁業    | 市営バス | 出張診療所 海洋教育施設 |

○当事業に係る目的・必要性

- ・大多府～日生航路は、日生港と大多府島、鴻島、頭島を結び、他航路がない唯一の航路であり、本航路は各離島住民にとって、通院、買物等になくてはならない生活航路である。離島住民の生活は、本土(備前市)の病院や商業施設に依存しており、本航路の利用が不可欠となっている。

### 定量的な目標・効果

年間目標利用者数を25,886人とする。

### 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

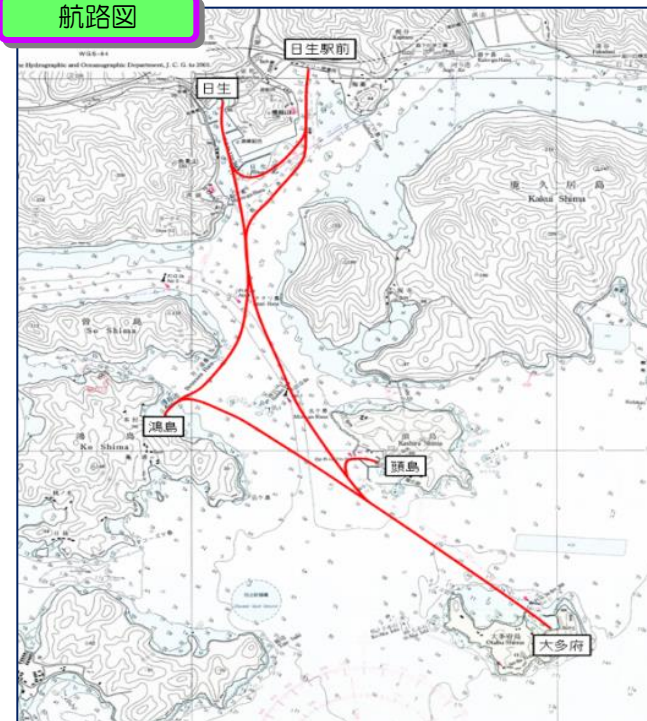
### 目標・効果達成状況

R6.10～R7.9までの利用者数は31,225人であり前年利用者27,954人から3,271人増加した。過疎化に加え新型コロナウイルス感染症により利用が大きく落ち込んでいたが、島民や観光客の利用により徐々に回復傾向にある。また令和6年10月のダイヤ改正より、鴻島の寄港便数を増加させたことで利用客が増加した。しかしながら、平成27年4月、市道日生頭島線が全線開通したことで大幅に利用者が減少し、平成26年度の利用者数(98,557人)と比較し31.7%の利用率となっており、厳しい状況は続いているが、目標利用者数25,886人の達成はできた。

### 事業の今後の改善点

島しょ部住民の高齢化や人口減少が進む中、今後も引き続き、運航事業者と行政が連携を図り、島しょ部の観光資源の活用や情報発信を行い、島外利用者の誘致及び離島住民の生活を支える交通手段として航路維持を図る。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 大津島巡航(株) (大津島～徳山航路)

○事業概要 ・大津島(本浦・馬島・刈尾・瀬戸浜)～徳山間を7往復運航 ・使用船舶：3隻(旅客船1隻、フェリー1隻、予備船1隻)

○離島の概要 ・大津島(人口170人 1.32世帯 高齢化率77.1%)

【主な産業】農業、漁業 【島内交通】コミュニティバス 【主な施設】診療所、宿泊施設

○当事業に係る目的・必要性

大津島と徳山港を結ぶ離島航路(大津島～徳山航路)は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。本航路は離島住民にとっては、通院、通勤等において、なくてはならない交通手段となっている。大津島には、回天記念館や回天訓練基地跡など来館者の多い施設があり、島外からの観光や学習等を目的とした乗船客数もコロナ禍以前の状態に戻りつつあるが、離島住民の人口減等により旅客運送は今後も減少傾向が見込まれる。このような状況の中で、事業者が単独で引き続き航路維持をしていくことは困難な状況にあり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

### 定量的な目標・効果

第3次大津島～徳山航路改善計画に沿って、航路事業の安定的且つ永続的な維持及び存続に努める。

※第3次大津島～徳山航路改善計画基本方針  
(令和4年3月策定)

- ①運航体制の見直し
- ②交流人口、観光人口の拡大
- ③安全で快適な航路利用環境の提供

### 事業実施の適切性

荒天や故障等によりやむを得ず欠航となった日を除き、概ね計画通りに事業は実施された。

### 目的・効果達成状況

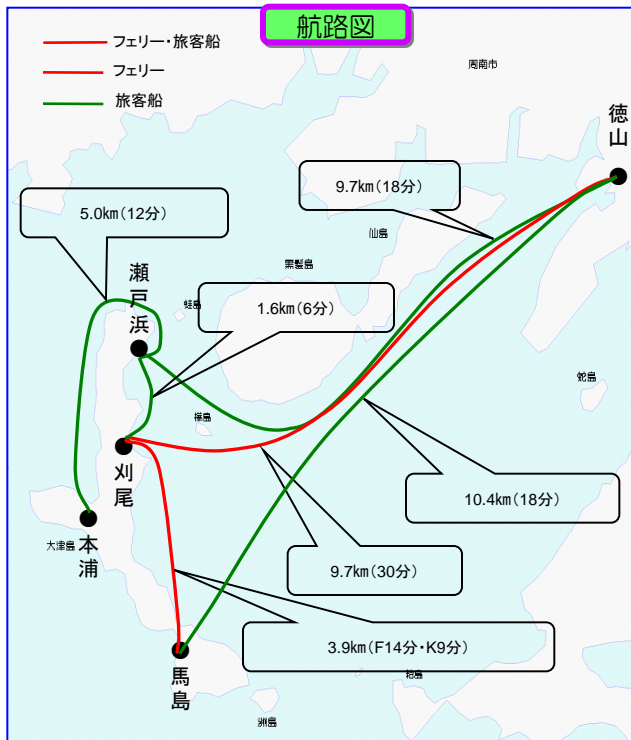
航路改善計画に基づき、航路の維持確保に努めた。具体的な取り組みは以下のとおり。

- ・瀬戸内サイクルPASS導入によるサイクリング客の呼び込み
- ・ホームページやXでの情報発信
- ・効率的な運航体制の検討等 【利用者数】68,461.5人(前年度比▲1,339.5人)

### 事業の今後の改善点

島民の減少等により、旅客運送は今後も減少傾向が見込まれる状況であるが、航路の維持に向け、引き続き船費等の経費削減に努め、経営改善に取り組む。  
また、関係機関と連携し、新船建造や効率的な運航体制の構築に向けた検討を行う。  
併せてホームページやX等により積極的な情報発信に努める。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 牛島海運(室積～牛島航路)

- 事業概要 ・室積～牛島間を1日3往復運航 ・使用船舶：旅客船1隻
- 離島の概要 ・牛島(人口27人 20世帯 高齢化率96.3%) 【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】診療所
- 当事業に係る目的・必要性

牛島と室積を結ぶ離島航路(牛島～室積航路)は、島民の生活を支えるためには、欠くことのできない唯一の交通手段である。島には、診療所はあるものの、平成29年4月より診療日が土曜日午前のみとなり、歯科等専門医への通院の足として、また、生活必需品全般の搬入手段として、他に依存することができず本航路の利用が不可欠となっている。しかしながら、離島住民は、漁業を生活の糧としているが、近年の漁業不振により若年者は高校卒業と同時に島外へ流出し、島の人口は年々減少し、島民の96.3%が65歳以上という高齢化が進み、人口の増加は望めず、航路利用者も減少しているのが現状である。このような状況の中で、収益の増加を見込むことは難しく、多額の欠損金はさげられないと考えられるため、事業者が単独で引き続き航路維持をしていくことは困難な状況で、その維持には、公的支援が必要な状況にある。

### 定量的な目標・効果

- ①目標利用者数6,700人/年を確保する。
- ②光市と連携のもと、島のPRや各種イベント開催等を通じた交流人口の増加策を図り、乗船客の増加に努める。
- ③修繕費については、定期検査を年1回とし、入渠時には船員を現場に派遣し、可能な作業を行う。また、簡易な点検、日常的な小修繕については、可能な限り船員で行い、経費節減に努める。

### 事業実施の適切性

運航計画1,092回のところ荒天等による欠航が116回あったが、概ね適切に実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①令和7年度の利用者は7,304人となり、目標利用者数を604人上回り、達成となった。
- ②FacebookやInstagramを活用した情報発信に努め利用促進を図った。また海の日協賛会との共催により、小学生を対象に一日船長体験を実施した。
- ③新船の就航に伴い、修繕費については大幅な減額となった。

【利用者数】7,304人(前年比+628.5人)

### 事業の今後の改善点

島の過疎・高齢化に伴い利用者が減少する中で、航路を維持するために、コミュニティセンターなど市関係機関との連携による不定期航路事業への取組みやFacebook等を活用した情報発信等により利用促進を図る。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 上関町（八島～上関航路）

- 事業概要 ・八島～室津～上関間を1日3往復運航 ・使用船舶：旅客船1隻
- 離島の概要 ・八島（人口16人12世帯 高齢化率75.0%）  
【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】診療所
- 当事業に係る目的・必要性

平成6年に新船となったことにより様々なメリットは実現したが、近年、過疎高齢化や人口減少により、恒常的な利用客の増加を望むことは困難である。今後も引き続き離島の特性を生かした交流事業、生産販売など特色ある観光の振興に取り組んではいくものの、一時的には利用者の増加を望むこともできるが、人口の減少に歯止めがきかない中での収益の増加は極めて困難な状況である。更に燃料費の高騰、船体の老朽化による修繕費の増加など経費は年々増加している。しかしながら、本航路は島民にとって唯一の交通手段であり、ライフラインである。

近年鳥獣被害も深刻化しているが島民は八島での生活を強く望んでいる。町としても、島民の期待に応えるべく努力はしているものの町の財政状況も厳しく、欠損額も増加傾向にあるため本事業を活用する必要がある。

### 定量的な目標・効果

- ①燃料費の入札を半期ごとに行い、経費削減に努める。
- ②島民以外の利用者を増やすため、島民と関係機関との協働により、温暖な気候を利用した特産品の開発や釣りを主にした観光事業に取り組む。
- ③年間運航回数1,092回を維持し、住民生活の安定と活性化を図る。

### 事業実施の適切性

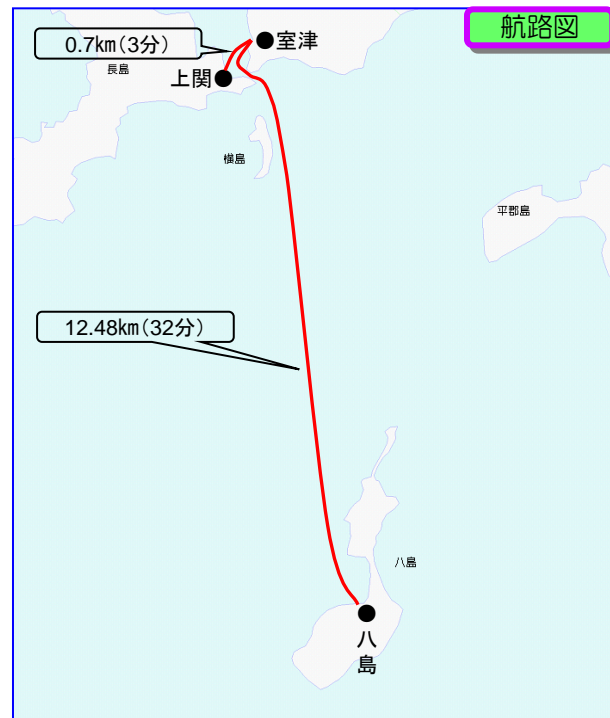
ポンツーンの取替工事が終了し室津～上関間の中学生の利用が増えたが、運航回数は悪天候が続いたため減少した。事業は概ね適切に実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①燃料費（軽油）の入札を半期ごとに行うと共に、燃料使用を出来るだけ抑える努力をし経費削減に努める。
  - ・燃料の高騰により期待した効果が得られなかったが概ね達成できた。
- ②旅客輸送人員1万人以上とし、島民以外の利用者を増やすために、島民と行政とが連携し、観光事業や温暖な気候を利用した特産品等の開発に取り組みつつ増収に努める。
  - ・釣り客等の増加を図ったが、取り組みなかった。
- ③年間運行回数1,092回を維持し、住民生活の安定と活性化を図る。
  - ・昨年度より運行回数は悪天候により減ったが概ね達成できた。
  - ・パンフレットにより観光客へ島旅のPRを行った。

### 事業の今後の改善点

島民以外の航路利用者を増やすために、島民と行政とが連携し、島の風景の観光事業や温暖な気候をPRした島旅の魅力を発信する。



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 上関航運(有) (祝島～柳井航路)

- 事業概要 ・ 祝島～四代～上関～室津～柳井間を1日3往復運航 ・ 使用船舶：旅客船1隻
- 離島の概要 ・ 祝島(人口262人 190世帯 高齢化率74.05%)  
【主な産業】 漁業、農業 【島内交通】 なし 【主な施設】 公民館、小学校、診療所、宿泊施設
- 当事業に係る目的・必要性

当該航路は、島と本土を結ぶ唯一の交通手段としての航路であるとともに、島民が生活するために必要不可欠な生活航路である。島民の通院、通学、通勤、買い物等の人の輸送の他、生活物資、郵便、宅急便、町役場の通送便、農産物鮮魚出荷等の産業活動に必要な輸送、さらには、電機、ガス、水道等の社会資本を維持するために必要な資材、機器等を輸送する重要な役割を担っている。このことから、当該航路は島民のライフラインと位置づけられ島民が生活するために必要不可欠な生活航路である。また、観光客、釣り客等の来島者にとっても唯一の交通機関であることから、本土との交流、観光産業においても欠かせない役割を担っている。

### 定量的な目標・効果

- ①運航回数は、1,092回を維持する。
- ②SNS等で祝島を積極的にアピールし、各種イベントの開催に取り組む。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航となる日もあったが、事業は概ね計画どおり適切に実施されている。

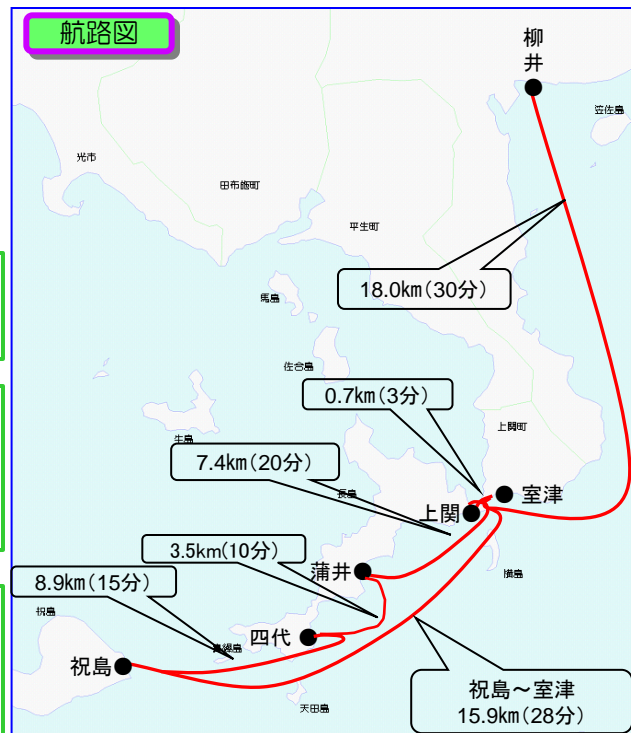
### 目的・効果達成状況

①荒天などで1,045.5回と目標を下回った。②SNS等で祝島やいわいの情報発信のほか島で行われるイベントの告知などを行った。  
【利用者数】25,944.5人(前年度比+954.5人)

### 事業の今後の改善点

引き続きSNS等で祝島やいわいの情報発信をして行き、島民や行政、地元関係者と協力し、島のアピールをして帰省客、釣り客、観光客の集客に取り組む。また、経費削減に努め、航路運営の効率化を図る。

### 航路図



# 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 離島航路構造改革事業に係る調査事業(大津島～徳山航路)の概要



## 周南市の概要

- ・平成15年4月に2市2町が合併
- ・人口 13万4千人(令和7年3月末時点)
- ・面積 656.29平方キロメートル

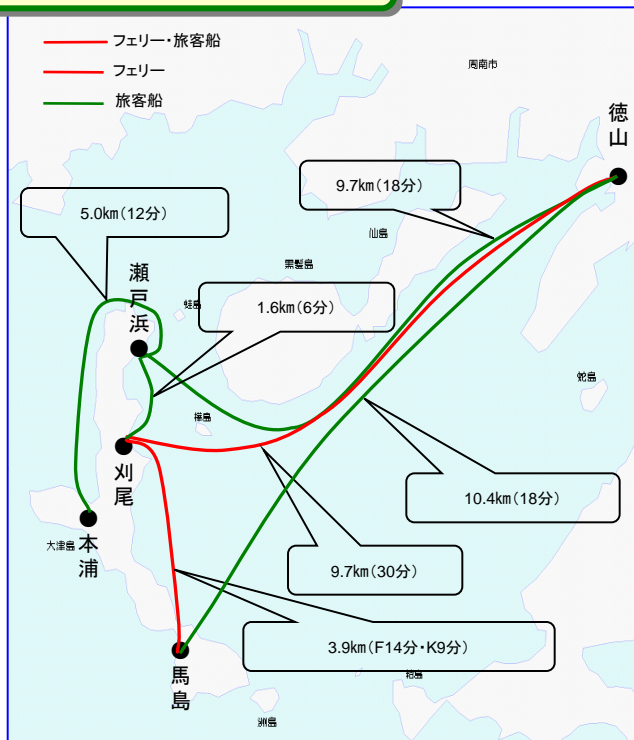
## 大津島～徳山航路改善協議会の構成員

中国運輸局、山口運輸支局、山口県、周南市  
税理士、大津島住民、大津島巡航株式会社

## 大津島～徳山航路の現状(大津島巡航株)

- 事業概要
  - ・大津島(本浦・馬島・刈尾・瀬戸浜)～徳山間を7往復運航
  - ・使用船舶:3隻(旅客船1隻、フェリー1隻、予備船1隻)
- 離島の概要
  - ・大津島(人口170人132世帯 高齢化率77.1%)
  - ※令和7年4月1日現在
  - 【主な産業】農業、漁業 【島内交通】コミュニティバス
  - 【主な施設】診療所、宿泊施設

## 大津島～徳山航路の現況



## 具体的な課題・問題点

- ・旅客船鼓海Ⅱの老朽化
- ・乗船時の安全・安心の確保
- ・修繕費、燃料潤滑油費等の増大



## 調査事業の実施

## 調査事業の概要

- ・航路にかかる現状整理
- ・航路の将来予測・分析(時点修正)
- ・代替建造、航路改善方策の検討
- ・航路改善計画(大津島～徳山航路)素案としてとりまとめる

## 協議会における検討

- 協議会の開催状況 2回開催
- 第5回（令和7年11月5日）  
令和7年度を取組、事業者決定  
計画素案提示
  - 第6回（令和8年3月以降開催予定）  
計画素案策定

## 地域住民の意見の反映

- 住民に対するアンケートを分析し、利用状況や新船に対する希望等を把握。
- 計画素案について島民説明会を実施。

## 事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- 航路改善計画（大津島～徳山航路）策定に必要な調査ができた。

## 調査事業の結果の概要

- 航路にかかる現状整理を行い、課題や着眼点について把握。
- 島民アンケート、島外利用者アンケート、関係者ヒアリング等の結果を分析し、利用者の意見を把握。
- 旅客船「鼓海Ⅱ」の代替建造の検討を行う。
- 航路改善方策の検討を行う。
- 今後の協議会の検討を経て、航路改善計画（大津島～徳山航路）として最終的にとりまとめる。



## 地域公共交通計画等の計画策定 に向けた方針等

現在運航している旅客船「鼓海Ⅱ」はまもなく船齢20年を迎え、老朽化が進行していることから、安全な運航の確保を行うとともに、小型化・省エネ化による燃料費の削減、維持修繕費の低減など運航コストの改善を図るため、新船の導入を行う。